甲　第　号

中上　純子　学位請求論文

審　査　要　旨

奈　良　県　立　医　科　大　学

論文審査の要旨及び担当者

論文審査担当者	委員長	教授	松本　雅則
	委員	教授	西尾　健治
	委員（指導教員）	教授	石井　均

主論文

Development of a self-efficacy questionnaire," Insulin Therapy Self-efficacy Scale (ITSS)",for insulin users: THE SELF-EFFICACY-Q study

インスリン使用患者における新規 Self-efficacy 質問紙（ITSS）の開発に関する臨床研究

Junko Nakaue, Miyuki Koizumi, Hiroki Nakajima, Sadanori Okada, Takako Mohri, Yasuhiro Akai, Miyuki Furuya, Yasuaki Hayashino, Yasunori Sato, Hitoshi Ishii

Journal Diabetes Investigation. 2019 Mar;10(2):358-366.

論文審査の要旨

糖尿病治療においてインスリンは最も効果的に血糖コントロールできる治療法である。インスリン療法を実行するためには、Bandura が提唱した“Self-efficacy”が重要である。現状ではインスリン治療に特化した self-efficacy を測定する質問紙は未だなく、本研究では糖尿病インスリン使用中患者の self-efficacy を測定する新たな質問紙を開発した。今回実施した質問紙の開発は、3 段階に分かれた標準的な手法を用いた。第 1 段階：当院外来通院中のインスリン治療中の患者 12 名に面談を行い、質問項目の作成と整理を行った。第 2 段階：対象患者 24 名に質問紙を配布し、質問紙の評価を行った。その後、項目の改訂を行い、21 項目で構成された Insulin therapy self-efficacy scale(ITSS)質問紙を作成した。第 3 段階：対象の患者に ITSS 質問紙を配布し、計量心理学的評価が行われた。その結果、因子分析で質問項目で 4 因子が同定され、質問紙の妥当性と信頼性が認められた。このことより、ITSS 質問紙は患者の self-efficacy を測定する尺度として、臨床的有用性を認め、将来の治療の成功につながると示唆された。本研究はインスリン使用中の糖尿病患者の self-efficacy を測定する質問紙を開発した、有意義な研究と評価された。

参　考　論　文

1.　奈良県における糖尿病患者の腎障害の実態 ～2014 年奈良県糖尿病診療実態調査の結果から～

岡田定規、赤井靖宏、中島拓紀、小泉実幸、中上純子、伊藤大、毛利貴子、増谷剛、山本修平、渡邉顕一郎、石井均

糖尿病 60 巻 4 号 Page 279-287(2017.04)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに糖尿病学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和元年 6 月 11 日

学位審査委員長

血液・血流機能再建医学

教授　　松本 雅則

学位審査委員

総合臨床病態学

教授　　西尾　健治

学位審査委員（指導教員）

糖尿病学

教授　　石井　均